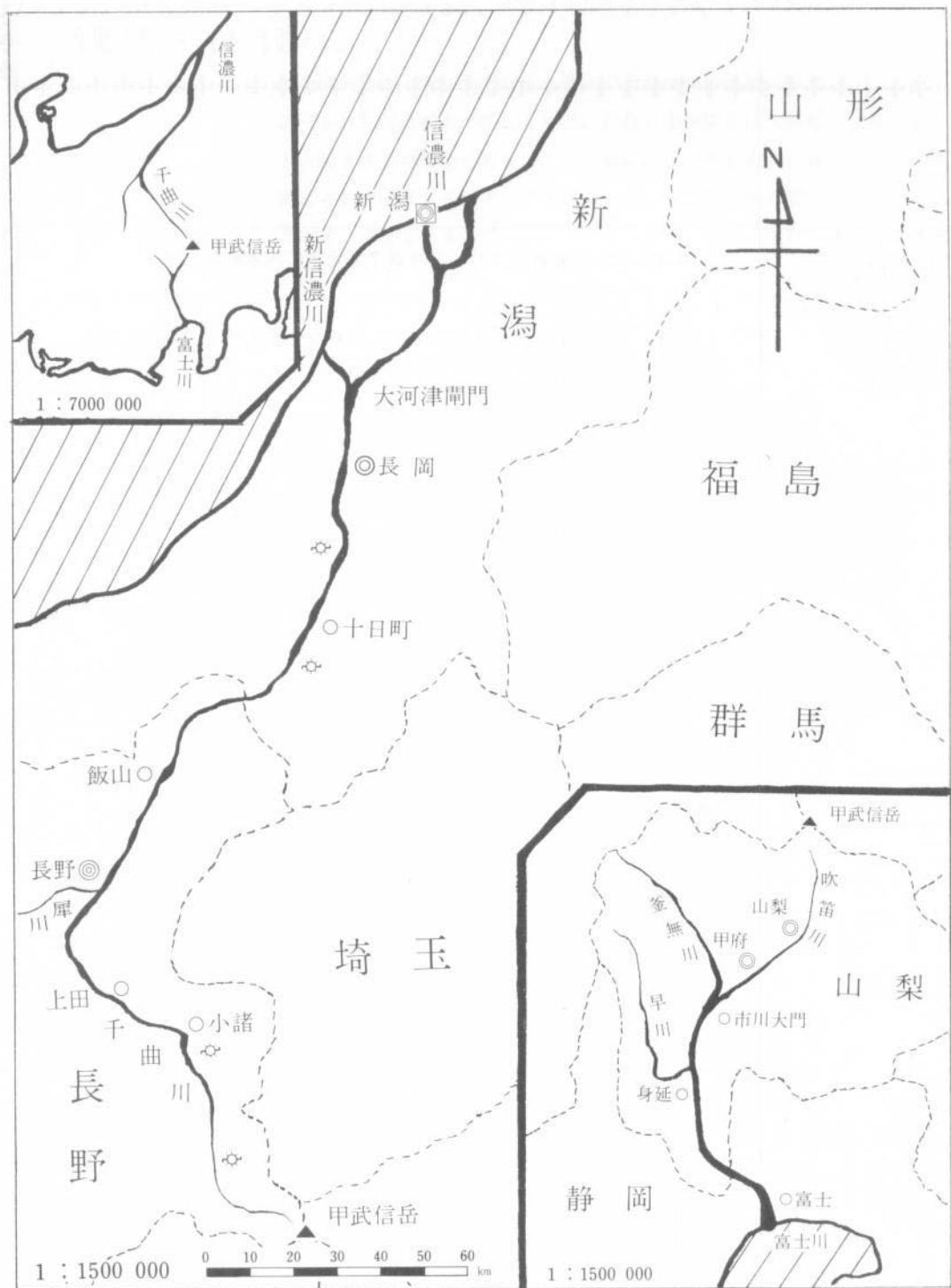


一 日 本 部 分 地 図 一



—活動記録—

野村・吉野

7月20日		23時20分発銀河2号にて隊員7名元気に大阪駅を出発。
7月21日 富士川河口 河口上流5km	晴れ	13時30分我々は日本横断航行の出発点である富士川河口に立つ。ファルトボートを組み立て、いよいよ出発。しかし6月中旬の偵察時より梅雨の為水量が多く流れが速いためファルトボートがはたして遡るかどうか、はやくも不安が全員の頭をかすめる。 時速約2kmの速度で3時間かかって、やっと富士川河口上流5kmにある新幹線高架下に着き、第1日目の安住の地とする。
7月22日 河口上流5km 北松野	快晴	富士川を遡るファルトボート航行隊2名と、装備・食糧その他を背負って川沿いに歩くサポート5名に分け、2時間交替のローテーションを組み、8時に出発。 河口附近と云うのに流れが速く、時速1kmでしか進まない。又、サポート隊の方も約35kgの荷物と、かなりハードである。
7月23日 北松野 坂下	快晴	昨日の偵察により、瀬戸橋までの6kmは瀬が多く、ファルトボート航行不可能なために徒步。瀬戸大橋にて再びファルトを組立て出発するが、小さな瀬が多く、ファルトを漕ぐのが全行程の $\frac{1}{3}$ ぐらいで、あとはファルトの前部にザイルを取りつけ、瀬の中や川岸を引っぱって歩くのがほとんどである。 13時40分静岡県を通過して山梨県に入る。
7月24日 坂下 大島	曇のち雨	富士川の状態は昨日と同じく、ファルトボートはなかなか進まない。サポート隊は左岸を進んでいたが、中野附近で断崖のため前進不可能となり、信濃川を下るために持って来たゴムボートを至急膨らませて右岸へ渡る。こんな所でゴムボートが必要になるとは、誰一人として考えもしなかった事である。 サポート隊、右岸の道を進み、大島にて航行隊と合流。 昼すぎから降り始めた雨が夕方からかなり強くなる。

7月25日 大島で沈没	雨	<p>昨日からの雨が止まず、今日は1日沈没するが、テント内が濡れて過ごしにくい。</p> <p>午後から大島・西口2名を塩ノ沢まで川の状態の偵察に出す。</p> <p>2時頃から川の増水が激しくなる。昨日、中洲に上げていたファルトボートが流される可能性があり、テント場に回収する。吉野・野村・谷口・伊藤の4名が中洲へのアタックを試みるが、渦流のために渡ることができず、ゴムボートを膨らませて中洲にアタックする。かなり流れが速く、1時間前と比べると、一段と水量が増え、波も大きくなっている。17時30分ようやく2台のファルトボートをゴムボートに積み、回収を行なう。</p>
7月26日 大島 波高島	晴れ	<p>昨日の雨のため水量が多く、ファルトボートで航行するのが危険であり、不可能と思われ、歩くことにする。</p> <p>朝早くから気持ちはいい太陽が出たので、ゆっくり装備を乾かし、ファルトボートの修理を行なう。10時30分大島を出発して、14時50分ようやく波高島に着く。</p>
7月27日 波高島 楠甫	晴れ	<p>富士川の水量は一段と増えているが、ファルトボートで遡る事にする。ファルトボートに乗っているのが不安であり、川岸まで水が増え、中洲もなくなっている。早川との合流点附近では一層流れが速く、ファルトボートが流されて、転覆しそうである。そこで、已む無くファルトを引き上げて徒步。新早川橋にてサポート隊と合流。飯富橋まで歩き、ここより再びファルトを浮かべ遡る。</p>
7月28日 楠甫 市川大門	晴れ	<p>楠甫上流は半静状態ではあるが、ファルトボートは時速3kmほどしか進まない。12時30分諏訪沢に到着。この附近が甲府盆地の入口であり、盆地特有のむし暑さがサポート隊の疲れを増す。</p> <p>ファルト航行隊は15時10分富士川の支流釜無川と笛吹川の合流点を通過。笛吹川に入ると、富士川の様相と一変して、川幅も狭くなり、両岸は雑草が生い茂っている。</p>
7月29日 市川大門 中道橋	晴れ	<p>午前中に現地連絡本部を依頼していた読売新聞社山梨支局の方より取材を受ける。</p> <p>笛吹川に入ってからの流れは緩いため、ファルトボート航行隊は富士川河口より楽になり、快適に進むが、サポート隊は暑さと疲労のためピッチが落ち、20分歩いては休憩という行動であった。</p>

7月30日 中道橋 山梨市	晴れ	いよいよ川幅が狭く、石がごろごろした瀬が続いているため、これより上流のファルトボートによる航行ができないため、石和橋にてファルトボートを上げる。7月21日以来9日間もの日数を費やして、富士川河口から遡って来て、ようやく山梨市へと到着した。しかし、まだまだ甲武信越え、千曲川・信濃川航行が後に控えており、考えただけでも苦痛である。 石和橋から山梨市までサイクリングロードを徒步。万力公園でキャンプ。
7月31日 山梨市 広瀬	晴れ	甲武信岳をめざして富士川沿いに進む、全員35kg前後の荷物である。 1日中容赦なく太陽が照りつける。10時下荻原にて昼食を取る。足の裏がいたい。広瀬まであと10km湯ノ平をすぎるころから道路も急に悪くなりはじめた。3時広瀬に到着、今日は距離24km、高度差800mも進む。 17時夕食、20時30分野村右足裏負傷。テント内で夕食時に使用したコンビーフの缶を灰血としてテント内においていたが、暗かった為あやまって缶を踏み右足裏を切る。テント内では適切な処置が取れないため近くの商店へ運び救急車を呼んでもらい、山梨市内の病院へ運ぶ。傷の長さ7cm深さ5~10mmで5針縫い歩くのが困難なため山梨市内の旅館に宿泊。この間渡部以下5名は広瀬の民宿に泊まり大阪連絡本部と連絡を取る。
8月1日 広瀬にて沈	晴れのち雨	山梨市駅にて渡部・伊藤と合流。野村合宿続行不可能なため帰阪し、今後の事は、野村の症状により合宿に入る事を決定する。14時45分野村帰阪、16時30分吉野・渡部・伊藤、広瀬にもどる。
8月2日 広瀬 金山沢出合	晴れ	昨夜降っていた雨もやみ、すがすがしい朝である。7時広瀬出発。9時15分東沢に入る。沢沿いの道は荒れていて、かさの大きいファルトボートが岩や木などの障害物にぶつかり歩くのが困難である。10時20分東沢小屋に到着。この附近から道もなくなり、全員わらじをつけ本格的な沢歩きである。11時50分金山沢出合に到着。約15mの滝があるため今日はここにテント設営し、午後はザイルを使ってファルトボートなどの装備を上げるが偵察していたので楽に仕事がはかどる。富士川沿いにテントを張り遡って来たが、ここに来て本当の自然の美しさに出会った感じがする。
8月3日 金山沢出合 甲武信小屋	晴れのち小雨	5時朝食、7時金山沢出合を出発する。滝上部は300mほどの傾斜のゆるいナメ滝が続き、その上が岩のごろごろする沢である。8時30分両門の滝着、滝の右側をザイルで確保して登る。10時15分東沢中間部にて昼食、休憩していると寒いため昼食後すぐ出発する。この附近から沢も終

<p>りにちかづき、傾斜が急になり足元も滑りやすくなる。12時15分甲武信岳小屋を目の前にして小雨が降りはじめる。13時甲武信岳到着、小屋の前にテント設営。</p>		
8月4日 甲武信小屋 居 倉	晴れ	6時甲武信小屋を出発、6時20分甲武信岳山頂を踏む。ここから第三の県長野県に入る。傾斜の激しい山道を千曲川上流に降りて行く。10時55分千曲川上流梓山に到着。計画では梓山からゴムボートで下る予定であったが、川幅が狭く水量が少ないためボート航行を中止し、航行できる所まで歩く事にする。12時50分居倉着。明日ここからゴムボートで出発すると決め、近くの寺院にテント設営。
8月5日 居 倉 御 所 平	晴れ	居倉にてボート航行準備を行なう。この附近、川幅約15m水の流れている幅3~4m位で水量少なく浅いため、やっとボートが通過できる状態である。10時15分居倉より日本海に向って350kmのボート航行開始である。ボートの底がつかえてボートを引っぱって歩かねばならない所が多く、又、えん堤が多いため時間がかかる。15時5分御所平上流1km地点にてボートが川中のブリキにひっかかりパンクする。御所平にてテントを張りボート修理を行なう。渡部・大島一の2名はポンプの調子が悪いため甲府まで購入に行く。16時10分O・B前田氏合宿に参加。
8月6日 御 所 平 海 尻	晴れ	8時30分御所平出発。川の状態は昨日とまったく同じである。9時30分海ノ口ダム着。このダムにより下流の水量が一段と少なくなっているがボートで下る事にし、荷物・ボートをダム下まで担いで運ぶ。ダム下から川平までの2kmの間、10~20m進むごとに0.3~1.0m落ちる瀬・瀧が続く。水量が少ないと安全であるが、水量が多ければ危険で下れないだろう。13時10分昼食を取り川平を出発。川平下流は水量が少ないが快適な流れになって来た。16時海尻到着、19時10分前田氏帰阪。
8月7日 海 尻 勝 間	晴れ	過労のためか全員寝起きが悪い。5時に朝食をとり8時30分まで仮眠する。海尻ダム下流から勝間まで水量がまったくないため千曲川沿いの道を全員歩いて進む、海尻(標高1,020m)より下り道のため1時間に7km歩ける。15時45分勝間着。今日約18km歩く、毎日体力の限界に挑戦しているようである。勝間下流は水量があるためボートを膨らまして航行準備をする。夕方より小雨

8月 8日 勝 間 し 小 諸	晴れ	8月 5日以来の航行によりボートの傷みがはげしいため修理に時間がかかり 10時 15分 勝間出発、水量が多くなり 1時間に 6km 進む。12時 5分 今井のダムにより全部の水が取り入れられているため中島まで航行不可能、ゴムボートをパッキングして歩く。16時 50分 小諸に到着、夕食を取り 懐古園にて休憩。小諸市内にはキャンプをする場所がないため 19時から 国道沿いに歩く、20時 45分 深沢の公園にて野営するがシュラフがないため野営しにくい。朝方 4時ごろには寒さがひどいため眠る事ができなかった。
8月 7日 小 諸 し 戸倉温 泉	晴れ	7時 30分 深沢にて軽い朝食を取り 国道沿いに中島まで歩く、観光地のため自動車が多い。中島にてゴムボートを膨らます、ここは、上流のダムから取り入れられた水がすべて排出され 多量の水量で流れが速い。 12時 20分 中島から航行開始、G2～G6位の瀬が続いている。瀬の状態は、岩が少ないと水量が多いため波が大きくなっている下りやすい瀬である。14時 上田を通過する、歩いていれば今日はここにテントを張るであろう。川の状態は同じである、時速 6km 位 快適な舟旅である。5時 10分 戸倉温泉到着。
8月 10日 戸倉温泉にて沈	晴れ	1日に 2度 温泉に入り今までの疲れをすべて洗い落とし、さっぱりした気分で 1日 完全休養を取る。
8月 11日 戸倉温 泉 し 立ヶ花 橋	晴れ	6時 20分 戸倉温泉を出発、瀬がほとんどないが流れが速く快適である。この附近、川の両岸には多くの釣り人達でにぎわっている。両岸からの釣り竿の門を通り、釣り人達から励まされたり 内りの邪魔と叱られたりしながら一路日本海をめざして進む。10時 20分 川中島橋通過、流れが緩くなりボートの速度落ちる。13時 信濃川の最大支流犀川と合流一段と水量が豊かになる。この附近が一番長野市に近い地点である。14時 5分 村山橋通過。15時 40分 立ヶ花橋到着、テント設営、今日の航行距離は 45km であった。
8月 12日 晴れのち弱雨 立ヶ花 橋 し 西 大 滝	晴れ	7時 立ヶ花橋出発、今日も同じ流れである。8時 替佐通過、ここから下流 6km 間川が左右に曲がり G2～G5 の瀬が多いが偵察するほどの瀬はない。10時 飯山にて昼食を取り先を急ぐ。14時 和永附近にて 東京電力パトロールの人に会う。この下 2km 西大滝にダムがありダム下流から 50km 西川口まで水がないらしい。「またか!!」と言う声を聞くと全員急に疲れが出たような感じがある。和永にてボートを上げ西大滝まで歩く。

信濃川下り

日付			天候	記述
8月13日	晴れ	西 大 滝	7時50分大滝ダム出発、信濃川は実にダムの多い川であり完全航行するのに適していない川である。11時28分19秒最後の県新潟県に足を踏み入れた。13時5分、水が少ないが宮野原からゴムボートで入り始める。	
		信濃川 橋	ゴムボートの底がつかえて進まない、歩いた方が早く進むだろう。15時15分灰雨通過、信濃川橋上流0.5km地点に瀬があり、地元の人に聞くとこの瀬は大滝の瀬と云い信濃川で一番大きな瀬であるが今は水量が少なくG3～G8である。16時50分信濃川橋にてキャンプ。	
8月14日	晴れ	信濃川 橋	7時30分信濃川橋出発、水量が少し増えた感じがするだけで昨日と同じ状態である。今日も水のない川でゴムボートを持ち上げ、引っぱる悲戦苦闘が続く。途中鹿渡で国鉄のダム越しをして先を急ぐ、城之古にてテントを張る。夜になると近くの神社から盆踊りの太鼓の音が聞こえてくる。	
		城 之 古		
8月15日	晴れ	城之古～川井新田	8時城之古出発、9時5分十日町橋通過、富士川出発以来25日間の疲れとここ2・3日の川下りで体が動かない。ボートに乗っているのもいやになる。	
8月16日	晴れ	川井新田	今日から野村も加わりファルトボート1台・ゴムボート2台で出発、10時西川口にて支流の水が入り急に水が増える。12時山本発電所に到着、	
		長 岡	ここから下流が信濃川の本当の水量であり上流から想像できないくらいの水が川一杯に流れさすが日本一の信濃川である。16時5分長岡着、今日は大嶋氏宅に泊まり、合宿に入って以来始めて屋根の下に寝る。	
8月17日	晴れ	長 岡～鶴ノ森	6時45分長生橋出発、全員必死でボートをこぎ進む。13時大川澤水門を通過、今日は12時間行動で鶴ノ森に着いたのは19時をすぎ辺りはすでに暗くなっていた。	
8月18日	晴れ	鶴ノ森～親 松	海が近づいたのか夕方になると逆風が強く波が大きいので必死で漕いでも進まない。どうにか河口から10km地点に到着。	
8月19日	晴れ	親 松	10時30分万代橋を過ぎると船が行きかい、やっと新潟港である。富士川河口(太平洋)を出発して以来“はやく日本海を見よう”を合言葉にひたすら前へ前へと進んで来たが、12時29分14秒全員無事新潟港の燈台を過ぎ日本海へ入る。ビールで祝杯を上げ、日本海に飛び込み今までの疲れを日本海に流した。	
		信濃川河口		